

漢法苞徳塾資料	No. 282
区分	診断論・望診
タイトル	病の新久と色：呉謙『四診心法要訣』より
著者	八木素萌
作成日	

☆病の新久

(呉謙) 原文

「新病脈奪・其色不奪・久病色奪・其脈不奪・新病易已・色脈不奪・久病難治・色脈俱奪」

訓み

〈新病ハ脈奪ワレテ其ノ色奪ワレズ、久病ハ色奪ワレテ其ノ脈奪ワレズ。新病ノ已^やミ易キモノハ色モ脈モ奪ワレズ、久病ノ難治ナルモノハ色モ脈モ^{とも}俱ニ奪ワルモノナリ。〉

原註

「此以色脈相合・診病新久難易之法也。脈奪者・脈微小也。色奪者・色不沢也。新病正受邪制・故脈奪也・邪受未久・故色不奪也。久病受邪已久・故色奪也。久病不進・故脈不奪也。若新病而色脈俱不奪・則正不衰而邪不盛也・故曰易已。久病色脈俱奪・則正已衰而邪方盛也・故曰難治」

訓み

〈此レ色ト脈ノ相イ合ウヲ以ッテ・病ノ新ト久ト難^{かた}キト易^{やす}キトヲ診ミルノ法ナリ。脈ノ奪ワルトハ脈ノ微小ナルモノナリ。色奪ワルトハ色ノ沢^{つや}セザルモノナリ。新病ノ正^{せい}ハ邪ノ制^{おさえ}ヲ受ケルノ故ニ脈奪ワルルナリ・邪ヲ受ケテ未ダ久シカラズ・故ニ色奪ワレザルナリ。久病ハ邪ヲ受ケテ已^{すで}ニ久シキ故ニ色奪ワルルナリ。久病ノ進マザルノ故ニ脈奪ワレザルモノナリ。若シ新病ニシテ色モ脈モトモニ奪ワレザレバ則チ正ハ衰エズシテ邪ハ盛ンナラザルモノナリ・故ニ已ミ易シト曰ウ。久病ノ色モ脈モトモニ奪ワレルモノハ則チ正ハ已ニ衰エテ邪ハ方ニ盛ンナルナリ・故ニ難治ト曰ウ。〉

◇診察するときの病の新旧と予後の判断の問題…

新病の2種類

1. 脈に病的な変化は明らかであるが、面色などの皮膚色には、さしたる変化が見られない（変化不明瞭）もの
2. 脈にも色にもさしたる変化が見られないもの

これらのうちでは2.は治り易いものである。

久病の2種類

1. 脈には病的な変化が不明瞭であるが、色は明らかに病的であるもの
2. 脈にも色にも、病的な状態が続いているもの

これらのうち b.の方は難治（治癒が困難な状態）である。

☆五臓の色

『天有五気・食人入鼻・蔵於五臓・上華面頤・肝青心赤・脾蔵色黄・肺白腎黒・五臓之常』

〈天ニ五気アリテ・人ヲ食^{やし}ナウニ鼻ニ入リテ・五臓ニ蔵サレ・上ニハ面頤^{めんい}ニ華^{あら}ワル・肝ハ青ク心ハ赤・脾臓ノ色ハ黄・肺ハ白ク腎ハ黒シ・五臓ノ常ナリ〉

この部分の「ここで大切な事は」5行のところであろう。その言いたい点は、五気の五行性と五臓の五行性とが、「類は友を呼ぶ」「似た者同士は集まる」の原理によって、相互に響震しあいます。したがって、入客し栄養することができるといえるわけである。そのように機能していれば、「精華」つまり「精が映えて表出している具体的な姿としての華」があることになる。そのようなものとして、五臓はそれぞれの色を現わすのだ、もしくは、「天の気」も「地の気」も「人氣」にチャント機能している事の表現として「五臓」の機能が十全である（天の五気・地の五気・人の五気などの全ての五気が、ある意味で集約された五臓の気＝五臓の五気でもある）こと、その「華」として「五臓の色」が現われて来ているのだ。と言うのである。

ゆえに、ここでの「色」と「気」の関係は、『望診遵経』の表現のように

「……気者色之変・色者気之常・気因色而其理始明・色因気而其義乃著・気也色也・分言之・則精微之道頭・合観之・則病症之変彰・此気色之提綱也……」

〈気ハ色ノ変・色ハ気ノ常・気ハ色ニ因リテ其ノ^{ことわり}理始メテ明ラカ・色ハ気ニ因リテ其ノ義乃ワチ著^{あら}ワル・気ナリ色ナリ・分ワチテコレヲ言ウトキハ・則ワチ精微ノ道頭^あラワナリ・合シテコレヲ観レバ・則チ病症ノ変彰ラカナリ・此レ気色ノ提綱ナリ〉

と言っている通りなのである。この点を了解してもらわなければならない。

☆色と気

『色見皮外・気含皮中・内光外澤・気色相融・有色無気・不病命傾・有気無色・雖困不凶』部分の原註の訓みのみを書いておく。

原註の訓み

「此以五色合五氣之診法也・青黄赤白黒ノ顯然ト皮ノ外ニ彰ラカトナレルモノハ五色ナリ。
隱然ト皮ノ中ニ含マレタルモノハ五氣ナリ。内ノ光灼々ト動ズルガ若トク。紋路ノ中ヨリ
外ニ映エ出デテ澤玉ノ如ク。浮セズソテ光油ノ亮ナルモノハ。則ワチ氣ト色ノ並至ト為シ
テ。相生無病ノ容状ナリ。若シ外ニ五色見ワレ内ニ含ミ映ユルモノ無クバ。則ワチ色有リ
テ氣無シト為ス。經ニ曰ウ。色至リ氣至ラザルモノハ死ト。凡テ四時・五臟・五部・五官
ノ百病ニ。之レノ見ワルルハ皆死スト。故ニ病マズト雖モ命必ズ傾ムクナリ。若シ外色ノ
浅ク淡クシテ澤セズシテ。内ニ含マルル光氣ノ映エ出ズルハ。則ワチ有気無色ト為ス。經
ニ曰ウ。氣至リ色至ラザルモノハ生ズト。凡テ四時・五臟・五部・五官ノ百病ニ。之レノ
見ラワルルモノハ皆生ズト。故ニ病困スト雖モ凶ニアラザルナリ〜」